医学教育分野別評価　群馬大学医学部医学科　年次報告書
平成３０年度

評価受審年度　　2017（平成 29）年

１．使命と学修成果

今後改善が見込まれる項目

１．使命と学修成果	**1.1　使命**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
医学部医学科の使命の中で、「国際的な健康障害」や「不平等な不正による健康への影響」に関する記載の追記が望まれる。	
現在の状況	
定期的に、アウトカムや教育ポリシーの見直しを行う予定であるが、改訂の機会はまだない。	
今後の計画	
時代の変化や社会からの要請に応じて、使命の見直しを行う PDCA サイクルを構築する。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

１．使命と学修成果	**1.3　学修成果**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
医学部医学科のアウトカムの中に、「卒前教育」と「卒後研修」との関連を明示すべきである。	
改善状況	
定期的に、アウトカムや教育ポリシーの見直しを行う予定であるが、改訂の機会はまだない。	
今後の計画	
時代の変化や社会、地域からの要請に応じて、医学科教育と卒後研修とのつながりについて適切な学修成果を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

１．使命と学修成果	1.3　学修成果
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、そして家族を尊重し適切な行動をとることを確実に修得させるべきである。	
改善状況	
カリキュラム検討委員会において、現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。	
今後の計画	
整合性の確認結果に基づき、本学のアウトカムやコンピテンシーで示した学修成果の策定とその修得度の評価について検討を進めていく計画である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会議事次第（第1回～第10回） 資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼	

１．使命と学修成果	1.3　学修成果
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
国際保健に関する学修成果について検討することが望まれる。ここで求められる「国際保健」の内容は、「1.1 使命の注釈：『国際的健康、医療の観点』は、国際的な健康障害の認識、不平等や不正による健康への影響などの認識を含む」である。	
現在の状況	
カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。	
今後の計画	
整合性の確認結果に基づいて「国際保健」に関する学修成果について検討する準備を進めていく計画である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会議事次第（第1回～第10回） 資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼	

１．使命と学修成果	1.4　使命と成果策定への参画
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
「使命と目標とする学修成果」の策定に、「他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者」からの意見を求めるべきである。	

現在の状況
平成 30 年 7 月から群馬県医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、臨床検査技師会、診療放射線技師会、群馬大学、群馬県が連携して医師をはじめとする医療スタッフの人材交流と育成を図り、地域医療の質と安全の向上に資することを目的として、ぐんま地域医療会議が設置された。この中で、地域で望まれる医師についてアンケートを実施した。
今後の計画
地域で望まれる医師に関するアンケートの結果や各委員の意見をもとに学修成果に反映できるか検討をすすめる。
現在の状況を示す根拠資料
資料1-3　ぐんま地域医療会議会則 資料1-4　ぐんま地域医療会議構成員名簿 資料1-5　平成30年度ぐんま地域医療会議次第（第1回～第3回）

2. 教育プログラム

改善した項目

２．教育プログラム	2.1　プログラムの構成
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
シラバスや授業スケジュールを、学生、教職員が理解しやすい環境を構築すべきである。	
改善状況	
平成 30 年度より、既存の教務システムや Moodle を活用し、履修している授業のスケジュールを学生が可視化できるようにした。	
今後の計画	
教務システムの使用方法についての説明会を教職員向けに開催する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-1　教務システム教員用マニュアル 資料2-2　教務システム学生用マニュアル	

２．教育プログラム	2.1　プログラムの構成
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
自己点検評価報告書72ページDに「学生が自分の学修過程に責任を持って主体的に取り組むことのできるカリキュラムや学修方法を取り入れるための検討を開始する」と記載されているが、アクティブラーニングや学修意欲を刺激する学修方法の開発を早急に行うべきである。	
改善状況	
・「応用生理学」「生化学」「分子病態学」「病理学」「臨床推論 TBL」等の科目で先	

駆的にアクティブラーニングを導入している。また、その方法・効果を医学科教員向けFDにて紹介し、解説した。 ・アクティブラーニング導入科目の拡充に向けて、内外部講師を招き FD を様々な形で実施した。教員へは医学科FDや全学FDにおいてアクティブラーニングの啓蒙活動を行い、また学生には学修意欲を刺激するため研修医対象のレジデントグランプリへの参加を促している。 ・令和2年度入学生より新カリキュラムを導入する予定であり、カリキュラム検討委員会においてもアクティブラーニングや学修意欲を刺激する学修方法の開発について検討している。
今後の計画
現行カリキュラム内でもアクティブラーニング導入の拡充と啓発を進めると共にアクティブラーニングを意識した新カリキュラムについてカリキュラム検討委員会において検討を進める。
改善状況を示す根拠資料
資料2-3　「応用生理学」「生化学」「分子病態学」「病理学」「臨床推論TBL」シラバス 資料2-4　平成30年度医学教育教授法FD次第 資料2-5　第10回全学FD連続講演会の開催案内 資料2-6　「ぐんまレジデントグランプリ2018」チラシ 資料2-7　平成30年度医学教育教授法ワークショップに関するアンケート 資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会議事次第（第1回～第10回）

２．教育プログラム	**2.1　プログラムの構成**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
能動的学修の機会を増やし、課題発見・問題解決、自己主導型学修、省察的実践のための能力をさらに育てていくことが望まれる。	
現在の状況	
能動的学修を取り入れた科目が増えており、FDにおいても能動的学修の有用性を周知し、実践を促している。授業時間外にも「シナリオトレーニング」等の能動的学修の機会を提供している。	
今後の計画	
引き続き、カリキュラム検討委員会を中心に能動的学修の機会の増加を図る。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-4　平成30年度医学教育教授法FD次第 資料2-5　第10回全学FD連続講演会の開催案内 資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会議事次第（第1回～第10回） 資料2-8　「シナリオトレーニング」ポスター	

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	2.2　科学的方法
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
臨床実習でEBMが十分には実践されておらず、臨床実習の現場でEBMの実践を強力に推進すべきである。	
現在の状況	
EBMの教育は4年次の「臨床試験・臨床研究」の講義において臨床研究に関する基本的な考えを学ばせた上で、臨床医学の系統講義において基本的な部分を教育している。臨床実習におけるEBMの実践についても啓発を行っている。 また、「UpToDate」、「Dynamed」、「今日の臨床サポート」等の情報サービスは学生がいつでも使用できる環境にある。平成 30 年度には学生、教職員に対して「UpToDate Anywhere」の説明会を開催し使用方法の周知を図った。	
今後の計画	
カリキュラム検討委員会と医学科教務部会の中にそれぞれ臨床実習のあり方を検討するために立ち上げられた WG において、現状の臨床実習の内容の見直しと新カリキュラムの枠組みを検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-9　平成30年度教務部会臨床実習改善WG名簿 資料2-10　カリキュラム検討委員会臨床実習WG名簿 資料2-11　UpToDate説明会・登録会の案内	

改善した項目

２．教育プログラム	2.3　基礎医学
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
能動的学修の機会を増やし課題発見、問題解決、自己主導型学修、省察的実践のための能力をさらに育てていくことが望まれます。	
改善状況	
「応用生理学」「神経生理学」「生化学」「分子病態学」等の科目で先駆的にアクティブラーニングを導入している。また、その方法・効果を医学科教員向け FD にて紹介し、解説した。 例えば、「神経生理学」の授業では、事前課題を設定して自己学習を促すことでグループディスカッションが効率的に進められるように工夫した。また、臨床の現場においても答えが定まっていない事項について神経生理学的に検討する課題をグループに与え、協同しながら必ずしも正しい答えのない問題に取り組む機会を与えた。	
今後の計画	
他の基礎科目においても能動的学修の機会を増やし、課題発見、問題解決、自己主導型学修、省察的実践のための能力をさらに育てていくことを検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-12　神経生理学講義について	

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	2.3　基礎医学
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
基礎医学カリキュラムで「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」についての検討を行うことが望まれる。	
現在の状況	
将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることとして、遺伝医療や少子高齢化への対応、医療安全等に係るカリキュラムについてカリキュラム検討委員会で検討を始めた。 例えば遺伝医療については、遺伝学関係の科目担当者で会議を実施し、学修内容の見直しを行った。また、神経生理学においても、現在もなお治療法が確立していない難病を題材として、ゲノム編集を利用した遺伝子治療について学修する機会を設けている。	
今後の計画	
上記以外の「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」についても、カリキュラムに反映させることを検討していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-13　「遺伝学」の講義に関する打合せ記録 資料2-14　脳への遺伝子導入～病気を遺伝子から治す～	

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	2.4　行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
「現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されること」について社会医学系カリキュラムの中で検討することが望まれる。	
現在の状況	
行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学についての医学教育のさらなる改善を図るために、カリキュラム検討委員会においてカリキュラムの大幅な改編について検討を行っている。 この改編のなかで、とくに態度系の教育内容に現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを盛り込むことについて、カリキュラム検討委員会および同委員会内に設置された WG において検討を開始した。	
今後の計画	
カリキュラム検討委員会では、カリキュラム改編の作業のなかで、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを具体的に盛り込む作業を進めることを予定している。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会議事次第（第1回～第10回）	

改善した項目

２．教育プログラム	2.5　臨床医学と技能

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

・内科・外科・産婦人科・小児科・精神科・プライマリケアなどの重要診療科での十分な臨床実習週数を確保すべきである。
・高齢者施設だけでなく、さまざまな医療の場でチーム医療を経験する機会を設けるべきである。
・臨床実習で「健康増進と予防医学の体験」を学べる機会を設けるべきである。
・学修成果を達成するための診療参加型臨床実習の在り方を学内で検討すべきである。

改善状況

・平成 30 年 5 月よりカリキュラム検討委員会を定期的に開催し、重要診療科の実習週数や実習運営方法を含めて診療参加型臨床実習の見直しを開始している。
・5-6 年次科目「臨床実習（選択）」の学外協力施設と懇談会を行った。平成 29 年度より内科・外科・プライマリケアの実習ができる施設が追加され、幅広い実習ができる機会を設けた。
・4 年次科目「チームワーク実習」において、さまざまな医療の場を経験する機会を設けている（がん治療、救急医療、透析医療、循環器疾患、緩和ケア、スポーツ外傷、回復期リハビリテーション、地域医療、精神保健領域、小児医療、重症心身障害児施設）。
・6 年次科目「地域保健医療論」において、疾病予防対策や地域保健などの公衆衛生の実際の応用例について、地域保健関連施設での実習や健康教室等で体験する機会を設けている。
・現行の臨床実習においても学修成果を達成するために、医学科教務部会および臨床実習運営委員会において参加型臨床実習の実施状況について確認、検討を行っている。
　令和 2 年度入学生から導入予定の新カリキュラムにおいて、知識・技術の修得のみならず、医師として必須となる態度や礼節についても各診療科の実習に導入する方向で新カリキュラムを検討している。

今後の計画

・令和 2 年度入学生より適用される新カリキュラムの検討において、診療参加型臨床実習のあり方やチーム医療教育についても検討を進める。
　また、現行の臨床実習についても改善を図るため、医学科教務部会のもとに設置した WG で検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 2-15　平成 29 年度臨床実習協力施設懇談会資料
資料 1-1　平成 30 年度カリキュラム検討委員会議事次第（第 1 回～第 10 回）
資料 2-16　平成 30 年度臨床実習運営委員会議事次第（第 1 回～第 10 回）
資料 2-17　「平成 30 年度チームワーク実習報告書」目次
資料 2-18　「地域保健医療論」シラバス
資料 2-9　平成 30 年度教務部会臨床実習改善 WG 名簿

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	2.5　臨床医学と技能
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・臨床医学教育カリキュラムで「現在および、将来において社会や医療制度上必要となること」を定義し、実践することが望まれる。 ・低学年からの継続した患者接触プログラムを構築し、カリキュラム全体での患者接触プログラム期間を充分確保することが望まれる。	
現在の状況	
・「現在および、将来において社会や医療制度上必要となること」として質の高い医療と医療安全を重視し、その構築に必須となるチーム医療やコミュニケーションスキルを学修するため、平成 30 年度に 4 年次科目「チームスキル演習」を開講した。平成 30 年度からチーム医療実習（介護老人保健施設、介護老人福祉施設等）においては実習前講義に認知症サポーター研修を導入し、オレンジリングを取得した上での実習を開始した。	
今後の計画	
・「現在および、将来において社会や医療制度上必要となること」を科目ごとではなく、カリキュラムに反映させることをカリキュラム検討委員会で検討する。 ・低学年からの継続した患者接触プログラムを検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 2-19　「チームスキル演習」シラバス	

改善した項目

２．教育プログラム	2.6　カリキュラム構造、構成と教育期間
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
今後、講座間での連携を強化し、水平的統合をさらに促進していくことが望まれる。学年をまたいでの垂直的統合の教育は不十分で改善が期待される。 今後、学修者の学修意欲を促進しより効果的な学修を促す目的で、科目や講座間での連携を強化し、垂直的統合を促進していくことが望まれる。	
現在の状況	
高学年では臓器・器官系を基盤とした複数の診療科の教員が水平的統合を意識した系統講義等を継続して実施している。 垂直統合に関しては、2 年次科目「肉眼解剖学」に加えて、同じく 2 年次科目「応用生理学」においても基礎系教員と臨床系教員が共に指導する TBL を導入し、基礎医学と臨床医学の垂直統合を図っている。この他、3 年次科目「主要症候と病態生理」、「発達と老化」、「遺伝医学」の授業においても引き続き基礎系教員と臨床系教員が連携して授業を担当している。また、遺伝学での垂直統合を図るため、「生物学」「基礎遺伝学」「遺伝医学」「臨床医学」の担当者が集まり、各科目における教育内容の共有と意見交換を実施した。	
今後の計画	
さらなる水平統合、垂直統合を導入し効果的なカリキュラムを作成するため、	

カリキュラム検討委員会にて令和2年度からの新カリキュラムについて議論を進めている。一部に複数の学年が同時に学ぶような授業を導入する予定である。
現在の状況を示す根拠資料
資料2-20　「応用生理学」、「主要症候と病態生理」、「発達と老化」、「遺伝医学」のシラバス 資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会議事次第（第1回～第10回） 資料2-13　「遺伝学」の講義に関する打合せ記録

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	**2.7　プログラム管理**
質的向上のための水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム検討委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。	
現在の状況	
現在のところカリキュラム検討委員会には教員と学生以外の教育の関係者の代表を含んでいない。平成 30 年度より、カリキュラム評価委員会に外部委員が参画しており、教員と学生以外の教育の関係者の意見を得る体制を構築している。	
今後の計画	
カリキュラム検討委員会またはカリキュラム検討委員会に関係する WG に他の医療職等の教育の関係者を加え、その意見を反映させる工夫をする。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料2-21　平成30年度カリキュラム検討委員会委員名簿 資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿	

今後改善が見込まれる項目

２．教育プログラム	**2.8　臨床実践と医療制度の連携**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習協力施設からの意見を具体的なカリキュラム改革に活かすことが望まれる。	
現在の状況	
一年に一度臨床実習協力施設との懇談会を行い、意見交換の場を設け臨床実習カリキュラムについての問題点を共有し、改善策を話し合っている。各施設の実習プログラム責任者、指導者、事務担当者が多く参加しており、他施設での診療参加型臨床実習を参考にするなど、各施設での実習プログラムの見直しの機会となっている。また、臨床実習協力施設からの意見は医学科教務部会にも報告されている。	
今後の計画	
令和元年度から、これまでより早期に臨床実習を協力施設で開始することにな	

った。IR 部門で得た情報、臨床実習協力施設からの意見を教務部会、カリキュラム検討委員会に提示し、カリキュラム構成に反映させる。
現在の状況を示す根拠資料
資料 2-23　平成 30 年度臨床実習協力施設懇談会次第 資料 2-24　平成 30 年度第 12 回医学科教務部会次第

３．　学生の評価

改善した項目

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教養科目だけでなく、専門科目でも疑義申立て制度を作るべきである。	
改善状況	
教養教育科目に関する疑義申立てについては制度化されていたが、専門科目の成績に関する疑義申立においては、科目担当者やチューター教員が個別の対応を行ってきた。これを改善するために平成 29 年 12 月の医学科教務部会において専門科目の疑義申立制度が審議され、翌 30 年 2 月 20 日の医学科会議で承認された。平成 30 年度から運用を開始している。	
今後の計画	
専門科目の疑義申立制度の設定が年度の途中だったため、学生にはメーリングリストにより周知した。今後は履修手引への掲載等学生および教員への周知を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-1　成績評価確認申請に関する申合せ 資料3-2　成績評価の確認について（通知文見本）	

３．学生の評価	**3.1　評価方法**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
評価基準が科目ごとに決められており、その基準も必ずしも明確でない。カリキュラム全体として評価の在り方を検討すべきである。	
改善状況	
様々な評価方法と形式について理解を深めるために平成 29 年度医学教育教授法ワークショップ（FD）（平成 29 年 12 月 9 日開催）において学内外の教育専門家による講演を実施した。学生評価についてその目的と機能、様々な評価方法、適切な評価の条件、アウトカム基盤型教育における評価について教員の知見を深めることができた。	

今後の計画
令和2年度入学生から適用される新カリキュラムにおける学生評価についてカリキュラム検討委員会および教務部会で検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料3-3　平成29年度医学教育教授法ワークショップ次第

３．学生の評価	3.2　評価と学修の関連
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
卒業時までに設定した学修成果の到達を確実に評価すべきである。	
改善状況	
臨床実習で身に付けた技能を臨床実習終了後 OSCE において適切に評価するために、平成 30 年 2 月に OSCE 運営委員会を発足した。これにより、臨床実習終了後 OSCE の課題作成・運営に臨床実習指導者が直接加わることとなり、臨床実習における教育内容と臨床実習終了後 OSCE の評価にいっそうの連携が図られるようになった。 また、学修成果の到達度を確実に評価するため、ロードマップの策定を進めている。ロードマップによる段階的な評価方法について教職員の理解を深めるため、２回にわたりロードマップ策定の FD を行なった。	
今後の計画	
臨床実習終了後 OSCE において学修成果の到達を確実に評価するため、OSCE 運営委員会で課題を検討する。また、臨床実習中にも適切に形成的な評価が実施できるよう臨床実習運営委員会等と連携を取っていく。 ロードマップやチェックポイント策定も進め、入学時から卒業時までの学修成果の到達度を確実に評価できるように検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3-4　群馬大学医学部医学科OSCE運営委員会内規 資料3-5　平成30年度OSCE運営委員会委員名簿 資料3-6　医学科カリキュラム検討ワークショップ資料	

４．　学生

改善した項目

４．学生	4.3　学生のカウンセリングと支援
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
学修上の問題だけでなく、学生個人の問題に対応する制度を作り、学生一人ずつの成長を担保していくべきである。	
改善状況	
半期ごとに行われる総合認定会議において、成績だけでなく学生個人の問題に	

ついても共有している。共有した情報を継続的な学生指導につなげるため、当該学期の科目担当者だけでなく次学期の科目担当者も総合認定会議に同席するように変更した。
今後の計画
総合認定会議を継続して開催し、科目担当者が連携して学生を支援できるよう情報を共有していく。また、これらの情報を担任チューターにフィードバックする仕組みを構築していく。
改善状況を示す根拠資料
資料4-1　平成30年度後期総合認定会議の開催についておよび平成30年度医学科専門科目担当教員一覧

４．学生	**4.4　学生の参加**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラムを管理する委員会活動に、どのように学生が参画するのか検討すべきである。	
改善状況	
教育プログラムを管理する教務委員会では、正式な委員としての学生の参加はなされていないが、医学科教務部会のもとに発足した臨床実習改善 WG のメンバーには学生が参加し議論に加わることになった。	
今後の計画	
教育プログラムの策定および評価のための委員会には学生が正式な委員として参加している。教育プログラムを管理する教務委員会において個別の課題に対応するためのワーキンググループが発足する場合には、今後も学生の参加がなされるように留意していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料2-9　平成30年度教務部会臨床実習改善WG名簿	

５．　教員

改善した項目

５．教員	**5.1　募集と選抜方法**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
医療事故を受け医療の質・安全学講座を新設しているが、教員を早急に配置し実質的な活動を行うべきである。	
現在の状況	
平成 29 年 11 月 1 日付けで、医療の質・安全学講座に、教授が着任した。現在の講座の教員体制は資料のとおりである。 また、現在の当該講座の担当授業科目・職員研修等の開催状況は各資料に示す	

とおりであり、活発な活動を行っている。平成 30 年度から新たに 4 年次科目「チームスキル演習」を開講し、「チームワーク実習」との選択必修科目とすることで、医療安全について学ぶ機会が拡充された。
今後の計画
平成 30 年度から、開始された活動を定着させるとともに、令和元年度以降も、大学院教育に繋がる研究活動へと展開する予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料 5-1　医療の質・安全管理講座の教員体制と沿革 資料 5-2　医療の質・安全管理講座教員担当の授業科目 資料 5-3　平成 30 年度医療安全および感染対策に関する研修一覧

５．教員	**5.2　教員の能力開発に関する方針**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
・個々の教員の教育・研究・診療のエフォート率を医学部が管理し、教員評価に利用すべきである。 ・個々の教員がカリキュラム全体像を理解することを促進すべきである。そのためにも FD の活動を拡充すべきである。	
現在の状況	
・教員評価は、大学全体で実施している。平成 28 年度から、実施頻度を 3 年毎から 1 年毎に変更した。この評価の各領域（教育、研究、社会貢献、管理運営）について、学部長が「重み付け」を設定してエフォートの管理をし、各教員が選択することとしている。学部長は、教員評価を実施し、必要に応じ改善指示を行っている。 ・教育法やカリキュラムに関する FD を全学部教員対象に開催した。医学科教員を対象としても毎年 1 回開催していたが、平成 29 年度には回数を増やして実施した。	
今後の計画	
各教員の重み付けの設定の専門領域別特性などを解析し、教育担当者の実質的配置状況と教育分担の適正化に繋げる予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 5-4　①群馬大学における教育評価実施要項 ②教員評価フローチャート（学部長の確認手順関係） 資料 5-5　教員評価基準（重み付け関係） 資料 5-6　教員評価書（入力画面） 資料 5-7　第 9 回、第 10 回全学 FD 連続講演会「大学教育のグランドデザイン」のチラシ 資料 5-8　2018 年度医学部医学科 FD 実施状況 資料 5-9　平成 29 年度医学教育教授法 FD の開催について	

５． 教員	5.2 教員の能力開発に関する方針
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための助言	
教員の教育負担の増加に対し、更なる対策が望まれる。	
現在の状況	
・会議の整理などを通じ拘束時間の軽減を図っている。 ・医師事務補助者等の採用を開始し、臨床系教員の負担軽減、業務の効率化に繋げている。 ・組織の見直しにより、講座・分野の再編を行い、新たに消化器・肝臓内科学分野および循環器外科学分野の教授ポストを増員した。それぞれの分野には平成 30 年 1 月、平成 30 年 3 月に教授が着任し、現在も引き続き体制の整備を行っている。	
今後の計画	
教員枠の増員を、大学本部に継続的に要望し、増大した業務に対応した人員を確保するべく折衝を続けていく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 5-10　会議の効率化について 資料 5-11　医師事務補助者の導入状況 資料 5-12　新設した臨床系講座（分野）に着任した教授	

６． 教育資源

改善した項目

６．教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための助言	
①学生用ロッカー、高学年用の自習室や臨床実習期間中の学生専用の学修スペースを確保すべきである。 ②基礎医学系実験室に学生が荷物を持ち込まないよう、学生のアメニティを整えるべきである。 ③病院で実施されている医療安全や感染対策に関する講習会に学生の参加を促進すべきである。	
改善状況	
①医学部のある昭和キャンパスに、40 名分のロッカーを増設し、利用を希望する学生全員に貸与できている。自習室に関しては 10 席増設したが、利用を希望する学生全員分の確保に至っていないため、さらに増設する必要がある。 ②ロッカーの増設をし、実験室へは荷物の持ち込みをしないよう指導した。 ③学生に授業時間外のシナリオトレーニングや医療安全に関する行事について案内している。	
今後の計画	
①学生用ロッカー、高学年用の自習室については学生からの要望を踏まえ、必要に応じてさらに検討を行う。	

②実験室の安全確保ための設備について引き続き検討する。 ③病院で実施されている医療安全や感染対策に関する講習会についても学生に積極的に周知し、参加を促していく。
改善状況を示す根拠資料
①資料6-1　自習室一覧（昭和キャンパス） ①②資料6-2　学生ロッカー整備状況 ③資料2-8　「シナリオトレーニング」ポスター 資料6-3　「患者安全サミット参加者による国際シンポジウム」チラシ

今後改善が見込まれる項目

６．教育資源	**6.1　施設・設備**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
新設される IR 部門とカリキュラム評価委員会の連携のもとに、定期的に学修環境が改善されることが期待される。	
現在の状況	
平成 30 年 6 月および平成 31 年 3 月に医学部 IR 室会議が行われた。この会議にカリキュラム評価委員会委員も参加し、連携して学修環境の改善を目指している。また、カリキュラム評価委員会に IR 室委員も参加し、密に連携を取ることが可能な体制を構築している。	
今後の計画	
今後は実務担当者で頻繁に集まり議論・作業を行いながら定期的に学修環境の見直し・改善を図っていく予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料6-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規則 資料6-5　医学部IR室構成員名簿旨 資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿 資料6-6　平成30年度医学部IR室会議次第および議事要旨（第1回、第2回）	

６．教育資源	**6.2　臨床トレーニングの資源**
基本的水準　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
①臨床実習ポートフォリオのデータを用いた「患者数と疾患分類」の検証を早急に行うべきである(疾患分類自体に関する妥当性の検討を含む) ②学外実習協力施設の教育環境をモニタすべきである。 ③適切な根拠のもとに「学生の臨床実習の指導者の確保」について検証し、指導体制を整備すべきである。	
現在の状況	
①学生が臨床実習中に経験した患者数と疾患分類について、医学教育モデル・コア・カリキュラム平成 28 年度版の 37 の主要症候の経験・臨床推論の枠組みを利	

用することをカリキュラム評価委員会で決定した。これに合わせてポートフォリオの経験症例の書式の改訂を行い、平成 30 年 4 年生から運用を開始している。 ②学生による実習施設・診療科に対する評価を収集し、臨床実習協力施設懇談会の際に各施設にフィードバックを行っている。 ③臨床研修指導医養成講習会を開催し、臨床実習指導者の養成に努めている。
今後の計画
①学生が臨床実習中に経験した患者数と疾患分類について、集計・検証を行う。検証結果に基づき、学外実習協力施設と連携して学生の経験が 37 の主要症候を網羅できるよう努める。 ②経験症例の検証対象を、学外実習協力施設にも順次拡大し、経験可能症例の全体的な把握を行う予定である。診療科長はじめ指導医は指導医講習会を受講するよう努める。 ③学外実習協力施設の指導医に対しては臨床実習協力施設懇談会の際に最新の教育方法について紹介することにより、学外実習の質の担保に努める。臨床実習指導医の配置状況を調査把握して体制の整備をする。臨床実習 WG で実習内容や体制について検討を進める。
現在の状況を示す根拠資料
①②資料6-7　経験症例一覧（新） ②資料6-8　実習内容に対する評価表 ③資料6-9　平成30年度群馬大学医学部附属病院臨床研修指導医養成講習会受講者の推薦について（臨床研修センター運営委員会資料抜粋）

受審後に医学教育分野別評価日本版に新たに加わった項目

６．教育資源	**6.2　臨床トレーニングの資源**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
臨床実習ポートフォリオのデータや学生からの実習評価等の活用により、「学外教育病院・診療所などの臨床トレーニング用施設の評価、整備、改善」が継続的に実施されることが望まれる。	
現在の状況	
臨床実習における経験症例の把握と検証のため、ポートフォリオの経験症例書式の改訂を行い平成 30 年度 4 年生から運用を開始した。 また、学生による実習施設・診療科に対する評価を収集しており、臨床実習協力施設懇談会の際にフィードバックを行っている。平成 30 年度には、学生からの意見や臨床実習運営委員会での要望に基づき、手術室実習での学生用の手術着の不足への対応として 120 着を追加購入した。	
今後の計画	
令和元年度の5年生より新しい経験症例書式を学外施設における臨床実習にも導入予定である。集計された経験可能症例の結果を、臨床実習協力施設懇談会の際に学外実習協力施設に提供し、学生が 37 の主要症候を網羅できるように呼びかける予定である。	
根拠資料	
資料6-7　経験症例一覧（新）	

資料6-8　実習内容に対する評価表 資料6-10　物品請求システム画面コピー（手術着購入）

６．教育資源	6.3　情報通信技術

基本的水準　判定：部分的適合
改善のための示唆
①診療参加型臨床実習を充実させるために、全学生に PHS を携帯させるべきである。 ②臨床実習中の学生に対して、十分な数の患者情報端末を確保するべきである。
現在の状況
①現行の院内 PHS は令和元年 10 月で終了予定であり、全学生への PHS 携帯に関しては院内通信網の整備計画に合わせて、関係部署と検討を行っている。 ②現在、学生優先の患者情報端末の整備に関連した検討を関係教職員で行っている。
今後の計画
①院内通信網の整備計画に則り検討を行っていく。 ②学生優先の患者情報端末について具体的な検討を進める。
現在の状況を示す根拠資料
資料6-11　院内通信網の整備計画（案）（臨床主任会議資料抜粋）

６．教育資源	6.3　情報通信技術

質的向上のための水準　判定：部分的適合
改善のための示唆
③ICT 環境をさらに整備し、学生の「自己学習」を促進することが望まれる。 ④診療参加型臨床実習の充実のために、臨床実習中の学生がカルテ記載について効率的に学修できるような環境整備が望まれる。
現在の状況
③医学図書館 1 階セミナー室へ情報端末 23 台を追加設置し、ICT 環境のさらなる整備を行った。また、「UpToDate」、「DynaMed」に加えて「UpToDate Anywhere」、「DynaMed Plus」を大学として導入し、学内外での自己学習環境を拡大した。 ④現在、学生優先の患者情報端末の整備について検討中である。
今後の計画
③学生からの要望を踏まえ、必要に応じてさらに検討を行う予定である。「UpToDate Anywhere」や「DynaMed Plus」の導入について、今後学生に周知を進め、利用を促す予定である。 ④学生優先の患者情報端末について具体的な検討を進める。
現在の状況を示す根拠資料
③資料6-12　演習室利用案内 資料6-13　「UpToDate Anywhere」のご案内 資料6-14　「DynaMed Plus」の説明資料

６．教育資源	6.5　教育専門家

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

学外の教育専門家の更なる活用が望まれる。

現在の状況

全学 FD 講演会を開催し、平成 29 年 11 月に学外の教育専門家として聖心女子大学文学部准教授 杉原真晃氏および日本工業大学工学部准教授　河住有希子氏を、平成 30 年 12 月に愛媛大学学長特別補佐　小林直人氏をお招きして学生主体型授業の導入についてご講演いただいた。

学外の教育専門家にカリキュラム評価委員に加わっていただき、カリキュラムについて専門的見地からの助言をいただいている。

今後の計画

学外の教育専門家による講演や助言の機会を増やすように検討していく。

現在の状況を示す根拠資料

資料5-7　第9回、第10回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」のチラシ
資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿

６．教育資源	6.6　教育の交流

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

国際交流の促進のために、更なる経済的援助や担当教員の配置を含めた組織的支援の充実が望まれる。

現在の状況

学生の単位の互換について、サバナ大学、ボッフム大学等において臨床実習（選択）の週数への換算が可能となっている。

また、グローバルフロンティアリーダー育成コースに在籍している学生に対する経済的援助の需給枠を増枠し、国際的に活躍する医師をめざす学生への支援の充実を図っている。

今後の計画

引き続き、国際交流に関する支援について運用を進めるとともに、各種支援に関する情報の学生への周知および参加促進を図る予定である。

現在の状況を示す根拠資料

資料6-15　臨床実習（選択）要項　抜粋
資料6-16　グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラム要項
資料6-17　グローバルフロンティアリーダー（GFL）育成プログラムにおける卓越した学生に対する授業料免除候補者の推薦枠数に関する申合わせ

７．プログラム評価

改善した項目

７．プログラム評価	7.1　プログラムのモニタと評価
基本的水準　　判定：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム評価委員会およびカリキュラム検討委員会の活動を早急に開始し、教育プロセスと学修成果を定期的にモニタリングし、評価結果をカリキュラムに確実に反映させるシステムを実働させるべきである。	
改善状況	
平成 28 年度に設置したカリキュラム評価委員会、カリキュラム検討委員会を稼働させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も平成 29 年度に設置して活動を開始した。カリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。また、IR 室において CBT 結果を分析し、教務部会において CBT 合格基準の変更を検討する資料とした。	
今後の計画	
現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認結果に基づいて、カリキュラム検討委員会においてカリキュラム改変の準備を進めていく計画である。CBT 合格基準の変更による学修成果の変化を検討していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7-1　カリキュラム評価委員会内規 資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿 資料7-2　平成30年度カリキュラム評価委員会議録（第1回～第4回） 資料7-3　カリキュラム検討委員会内規 資料2-21　平成30年度カリキュラム検討委員会委員名簿 資料7-4　平成30年度カリキュラム検討委員会議事要旨（第1回～第10回） 資料6-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規則 資料6-5　医学部IR室構成員名簿 資料6-6　平成30年度医学部IR室会議次第および議事要旨（第1回、第2回） 資料7-5　CBT合格基準の検討について（医学科会議資料および記録）	

７．プログラム評価	7.1　プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準　　判定：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム評価委員会およびカリキュラム検討委員会の活動を早急に開始し、教育活動、カリキュラムの構成要素、長期間の学修成果について、包括的に評価することが期待される。	
改善状況	

カリキュラム評価委員会に本学大学教育・学生支援機構教育改革推進室員に委員として参加いただき、カリキュラム評価等に関する意見やアドバイスを受けている。

平成30年度にカリキュラム検討委員会において、カリキュラムの構成要素を分析するために現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。IR室が成績データの分析を開始し、現有データの問題点を整理し、IR室による分析結果に基づき、医学科教務部会においてCBTの合格基準の見直しを実施した。

今後の計画

学生の成績データの分析を継続する。

現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認結果に基づいて、カリキュラム検討委員会においてカリキュラム改変の準備を進めていく。CBT 合格基準の変更による学修成果の変化を評価していく。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　カリキュラム評価委員会内規
資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿
資料7-6　群馬大学大学教育・学生支援機構教育改革推進室規程
資料7-2　平成30年度カリキュラム評価委員会議事録（第1回～第4回）
資料7-3　カリキュラム検討委員会内規
資料2-21　平成30年度カリキュラム検討委員会委員名簿
資料7-4　平成30年度カリキュラム検討委員会議事要旨（第1回～第10回）
資料6-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規則
資料6-5　医学部IR室構成員名簿
資料6-6　平成30年度医学部IR室会議次第および議事要旨（第1回、第2回）
資料7-5　CBT合格基準の検討について（医学科会議資料および記録）

7．プログラム評価	**7.2　教員と学生からのフィードバック**

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

カリキュラム評価委員会、IR 部門およびカリキュラム検討委員会を整備し、大学が主体となって教員および学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し対応すべきである。

改善状況

学生を対象とした授業や大学生活に関するアンケート調査は、これまで学生主体で実施していた。これに加え、平成29年度にカリキュラム評価委員会で検討して、学生に対する卒業時アンケートを大学主体として毎年実施することを決定した。集計結果は教授会で報告した。

平成 30 年度にはカリキュラム検討委員会を中心に下記アンケートおよび意見交換会を実施し、教員からのフィードバックを得た。

・数学、化学、物理の教育に係るアンケート
・カリキュラムの現状と課題アンケート

・「医系の数理科学」開講に向けた意見交換会
・教養教育（数学、物理、化学）の担当教員との意見交換会
集約した意見はカリキュラム検討委員会に提出され、教育プログラムの改善に向けた資料として利用されている。

今後の計画

学生および教員を対象としたアンケート調査を継続し、結果の解析を継続する。
教学 IR の活動にあたっては、大学教育・学生支援機構教育改革推進室と連携して教務関係データの利活用を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料7-7　平成29年度および平成30年度卒業時アンケート調査票および結果概要
資料7-8　第1378回および第1391回医学科会議議題および資料の抜粋（平成30年度第1回および第4回カリキュラム評価委員会報告）
資料 7-9　数学、化学、物理の教育に係るアンケート依頼文
資料 7-10　カリキュラムの現状と課題アンケート依頼文
資料 7-11　「医系の数理科学」開講に向けた意見交換会について
資料7-12　教養教育（数学、物理、化学）の担当教員との意見交換記録
資料7-6　群馬大学大学教育・学生支援機構教育改革推進室規程

7．プログラム評価	**7.2　教員と学生からのフィードバック**

質的向上のための水準判定：部分的適合

改善のための示唆

カリキュラム評価委員会およびカリキュラム検討委員会､IR 部門を整備し PDCA を実行し､教員および学生からの系統的なフィードバック結果を利用してプログラム開発につなげることが望まれる。

改善状況

学生を対象とした授業や大学生活に関するアンケート調査は、これまで学生主体で実施していた。これに加え、平成29年度にカリキュラム評価委員会で検討して、学生に対する卒業時アンケートを大学主体として毎年実施することを決定した。また、教員を対象とした意見交換会およびアンケート調査を実施した。集計結果はカリキュラム検討委員会に提出され、教育プログラムの開発に向けた資料として利用されている。

今後の計画

学生および教員を対象としたアンケート調査を継続し、結果の解析を継続する。

改善状況を示す根拠資料

資料7-7　平成29年度および平成30年度卒業時アンケート調査票および結果概要
資料7-8　第1378回および第1391回医学科会議資料（平成30年度第1回および第4回カリキュラム評価委員会報告）
資料 7-9　数学、化学、物理の教育に係るアンケート依頼文
資料 7-10　カリキュラムの現状と課題アンケート依頼文
資料 7-11　「医系の数理科学」開講に向けた意見交換会について
資料7-12　教養教育（数学、物理、化学）の担当教員との意見交換記録

７．プログラム評価	7.3　学生と卒業生の実績

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

　卒業後の活動に関する系統的な情報を収集し、使命や学修成果との関連性を分析する仕組みを整備すべきである。
医学部医学科のアウトカムに沿ったカリキュラム、資源の提供状況の分析を系統的に行うべきである。

改善状況

　カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会を稼働させ、平成 29 年度より評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も設置して活動を開始した。

　平成 30 年度より本学大学教育・学生支援機構と連携して卒業生の初期研修先に対し卒業生の実績に関する情報の系統的な収集を開始した。

　平成30年度にカリキュラム検討委員会において現カリキュラムと医学教育モデル・コア・カリキュラムや本学の目指すアウトカムとの整合性確認を行った。

今後の計画

　本学大学教育・学生支援機構と連携して卒業生の初期研修先に関して収集した情報について、分析を実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　カリキュラム評価委員会内規
資料2-22　カリキュラム評価委員会委員名簿
資料7-2　平成30年度カリキュラム評価委員会議事録（第1回～第4回）
資料7-3　カリキュラム検討委員会内規
資料2-21　平成30年度カリキュラム検討委員会委員名簿
資料7-4　平成30年度カリキュラム検討委員会議事要旨（第1回～第10回）
資料6-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規則
資料6-5　医学部IR室構成員名簿
資料6-6　平成30年度医学部IR室会議次第および議事要旨（第1回、第2回）
資料7-13　群馬大学大学教育・学生支援機構規則
資料7-14　群馬大学卒業生・修了生就職先機関アンケート調査用紙
資料1-2　カリキュラムとモデル・コア・カリキュラムの照合調査依頼

７．プログラム評価	7.3　学生と卒業生の実績

質的向上のための水準　　判定：部分的適合

改善のための示唆

　系統的なフィードバックについて、カリキュラム評価委員会およびカリキュラム検討委員会、IR 部門を稼働させ、学生と卒業生の実績を分析し、入学者の選抜、カリキュラム立案へのフィードバックを行うことが期待される。

改善状況

在学生については、カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会を稼働させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も平成 29 年度に設置して活動を開始した。IR 室が学生の成績データの分析を開始し、現有データの問題点を整理した。卒業生については平成 30 年度より本学大学教育学生支援機構と連携して卒業生の初期研修先に対し卒業生の実績に関する情報の系統的な収集を開始した。

今後の計画

学生の実績について分析を継続する。

卒業生の初期研修先に関して収集した情報について、分析を実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料7-1　カリキュラム評価委員会内規
資料2-22　カリキュラム評価委員会委員名簿
資料7-2　平成30年度カリキュラム評価委員会議録（第1回～第4回）
資料7-3　カリキュラム検討委員会内規
資料2-21　平成30年度カリキュラム検討委員会委員名簿
資料7-4　平成30年度カリキュラム検討委員会議事要旨（第1回～第10回）
資料6-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規則
資料6-5　医学部IR室構成員名簿
資料6-6　平成30年度医学部IR室会議次第および議事要旨（第1回、第2回）
資料7-13　群馬大学大学教育・学生支援機構規則
資料7-14　群馬大学卒業生・修了生就職先機関アンケート調査用紙

７．プログラム評価	**7.4　教育の関係者の関与**

基本的水準　　判定　部分的適合

改善のための助言

早急にカリキュラム評価委員会を稼働させ、その評価結果を主な教育の関係者に提供すべきである。

改善状況

平成28年度に設置したカリキュラム評価委員会を稼働させた。外部の医学教育専門家、県の保健医療担当者、本学他学科等教員、学生代表が委員に加わっている。カリキュラム評価委員会の議事録は教授会で報告されている。

今後の計画

カリキュラム評価委員会で外部の教育専門家にも意見を求め、委員会の結果の提供を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿
資料7-2　平成30年度カリキュラム評価委員会議録（第1回～第4回）
資料7-8　第1378回および第1391回医学科会議議題および資料抜粋（平成30年度第1回および第4回カリキュラム評価委員会報告）

７．プログラム評価	７．４　教育の関係者の関与
質的向上のための水準　　判定　部分的適合	
改善のための示唆	
プログラムの評価の結果の透明性を確保することが期待される。 カリキュラムに対するフィードバックを系統的に得る仕組みを整えることが期待される。	
改善状況	
外部の教育専門家も委員に加わるカリキュラム評価委員会を設置し、開催した。委員会に参加している外部の医学教育専門家、県の保健医療担当者、本学他学科等教員、学生代表から本学のカリキュラムへのフィードバックを得ている。委員会の議事録は教授会で報告されている。	
今後の計画	
カリキュラム評価委員会で外部の教育専門家にも意見を求め、委員会の結果の提供を継続していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料7-1　カリキュラム評価委員会内規 資料2-22　平成30年度カリキュラム評価委員会委員名簿 資料7-2　平成30年度カリキュラム評価委員会議録（第1回～第4回） 資料 7-8　第 1378 回および第 1391 回医学科会議議題および資料抜粋(平成 30 年度第 1 回および第 4 回カリキュラム評価委員会報告)	

８．　統轄および管理運営

改善した項目

８．　統轄および管理運営	8.1　統轄
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
新設されたカリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会、予定されている IR 部門において、既存の委員会との役割分担を明確にし、規定すべきである。	
改善状況	
カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会の規程に加え、平成 29 年 12 月に設置された IR 室においても役割を明確にし、規程を制定した。	
今後の計画	
各委員会を運営しながら、必要に応じて役割分担の見直しを行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料6-4　群馬大学医学部インスティテューショナル・リサーチ室規則 資料8-1　医学科における教育のPDCA図	

８．　統轄および管理運営	8.1　統轄

質的向上のための水準　判定：適合
改善のための示唆
より多くの教員からの意見を教育プログラムの改善にかかる委員会に反映させることが望まれる。
現在の状況
より多くの教員から意見を得るため、平成 30 年度にはカリキュラム検討委員会を中心に下記アンケートおよび意見交換会を実施した。 ・数学、化学、物理の教育に係るアンケート ・カリキュラムの現状と課題アンケート ・「医系の数理科学」開講に向けた意見交換会 ・教養教育（数学、物理、化学）の担当教員との意見交換会 集約した意見はカリキュラム検討委員会に提出され、教育プログラムの改善に向けた資料として利用されている。
今後の計画
令和 2 年度入学生から順次導入予定の新カリキュラム策定に向けて、引き続き教員の意見を集めながら教育プログラムの改善を図る。
現在の状況を示す根拠資料
資料 7-9　数学、化学、物理の教育に係るアンケート依頼文 資料 7-10　カリキュラムの現状と課題アンケート依頼文 資料 7-11　「医系の数理科学」開講に向けた意見交換会について 資料 7-12　教養教育（数学、物理、化学）の担当教員との意見交換記録

８．　統轄および管理運営	**8.2　教学のリーダーシップ**
質的向上のための水準　判定：適合	
改善のための示唆	
教学のリーダーシップにおいて、評価基準や方法を定めて定期的に評価を実施することが望まれる。	
現在の状況	
教学を含む大学全体のリーダーである学長については、2 年に 1 度実施される学長選考会議に置いて評価を実施している。また、医学部長、研究科長についてもそれぞれの適任者選考規程に基づき役員会の議を経て学長が指名することとなっている。平年 30 年度の学長、医学部長、研究科長の任期満了に伴い上記の規則に則り現在の学長、医学部長、研究科長が選出され、平成 31 年 4 月より業務の遂行にあたっているところである。	
今後の計画	
引き続き 2 年ごとに学長、医学部長、研究科長の選出、評価を実施する。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料8-2　国立大学法人群馬大学学長選考規程 資料8-3　群馬大学医学部長適任者選考規程 資料8-4　群馬大学医学系研究科長適任者選考規程	

８．　統轄および管理運営	8.3　教育予算と資源配分

基本的水準　判定：適合

改善のための助言

　教育予算が教育上の要請に沿って決められていることを検証すべきである。

改善状況

　医学部長の下に設置されている企画戦略会議において、教育に関する予算についても議論している。また、教務委員会医学科部会や学友会からの要望に基づき予算の確保が行われている。平成 30 年度は、実習経費等について予算の見直しがなされた。

今後の計画

　企画戦略会議や教務委員会医学科部会等で教育上必要な事項について審議し、その要請をもとに適正な予算の配分に努める。

改善状況を示す根拠資料

資料8-5　群馬大学大学院医学系研究科企画戦略会議規程
資料8-6　　＜学外実習の期間延長および実習経費増加に係る検討資料＞
平成29-30年度群馬大学医学部医学科「臨床実習(選択)」(5-6年次生)
実施要項(案)
資料8-7　＜地域保健実習経費の変更についての協議資料＞
群馬大学医学部医学科における外部施設への実習謝金に関する申合せ(案)

８．　統轄および管理運営	8.3　教育予算と資源配分

質的向上のための水準　判定：適合

改善のための示唆

　医学の発展と社会のニーズに沿って、教育予算の配分を行うことが望まれる。

現在の状況

　社会のニーズに応えるためには医療安全教育の充実が必須であることから、平成 29 年 11 月に「医療の質・安全学講座」に専任教授を配置し、医療安全教育および多職種連携教育の充実を図っている。また、これからの社会ではデータサイエンスの素養を持った人材の育成が重要であることから、平成 29 年 12 月に数理データ科学教育研究センターを設置した。令和 2 年度入学生よりデータサイエンス科目の導入を予定しており、e－ラ―ニング設備にも予算を配分している。

今後の計画

　引き続き医学の発展と社会のニーズを鑑みた教育予算の配分を実施する。

現在の状況を示す根拠資料

資料5-1　医療の質・安全管理講座の教員体制と沿革
資料8-8　数理データ科学教育研究センター概要
資料8-9　ぐんまデータサイエンス教育プログラム資料

８．　統轄および管理運営	8.4　事務と運営
基本的水準　判定：適合	
改善のための助言	
教育を支援する事務部門の業務の増加に対する対策を行うべきである。	
改善状況	
教学 IR の充実のため、平成 30 年度に IR 室を設置し、事務補佐員を増員した。	
今後の計画	
根拠データを収集・分析する IR 室が活動を開始し、結果の解析を継続していく。教学 IR の活動、臨床実習終了後 OSCE の正式実施等、教育を支援する事務部門の業務の増加について引き続き関係部署と協議していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料6-5　平成30年度医学部IR室構成員名簿 資料6-6　平成30年度医学部IR室会議次第および議事要旨（第1回、第2回）	

９．　継続的改良

改善した項目

基本的水準　判定：部分的適合
改善のための助言
IR 部門を速やかに機能させて、カリキュラム検討委員会とカリキュラム評価委員会とともに機能的運用を行うべきである。
改善状況
平成 28 年度に設置したカリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会を稼働させ、評価に必要な根拠データを収集・分析する IR 室も平成 29 年度に設置して活動を開始した。いずれの委員会も継続的に開催され、その機能を果たしている。
今後の計画
引き続き、カリキュラム検討委員会、カリキュラム評価委員会、IR 室の活動を継続し、医学科教務部会と連携してカリキュラムの継続的改良に努める。
改善状況を示す根拠資料 資料 8-1　医学科における教育の PDCA 図 資料1-1　平成30年度カリキュラム検討委員会次第（第1回～第10回） 資料9-1　平成30年度カリキュラム評価委員会次第（第1回～第4回） 資料9-2　平成30年度医学部IR室会議次第（第1回、2回）